

平成30年7月西日本豪雨災害での 笠戸島住民孤立に関する調査検討会の概要版

平成31年3月29日

1. 災害の概要

山口県では平成30年7月5日から7日朝にかけて断続的に激しい雨が降り、県中部・東部を中心に記録的な大雨となった。岩国市・光市・周南市などでは、土砂崩れによる家屋の倒壊や流出、河川の増水による浸水等が発生した。

下松市では、気象台の下松地域気象観測所で、5日00時から7日09時までの総降水量が478.0mmの大雨となり、また、5日01時から02時までの1時間に86.0mmの猛烈な雨が降り、観測史上最大となった。

これにより笠戸島では、唯一の県道笠戸島線の尾郷地区で崩土及び道台崩落に加え、深淵地区で路面の亀裂も発生し、7日未明から28日18時まで全面通行止めとなり、複数の地区で約350世帯550人が、約三週間も孤立した状態となった。

道路の通行止めによって路線バスが運休、陸上交通手段が使用できないことから、住民の移動手段等が海上交通に頼らざるを得ない状態となった。

【笠戸島の被害状況】



2. 検討会の目的

今回の豪雨災害によって笠戸島では、唯一の島内道路が寸断したことにより、複数の集落が孤立した。

このため下松市は、連絡船を運航するよう調整し、通勤や通学などの人の移動や物流の確保を図った。

瀬戸内海という地域柄、半島部や島嶼部が多く、本土から架橋と島内道路が接続されている地域が散見される。

架橋や道路に災害が発生した場合には、住民生活や経済活動が妨げられ、不安や不便を可能な限り最小限にするためにも、この災害で経験したことが、将来とるべき行動の目安になるのではないかと考えた。

今回の経験から、関係機関との連携や役割などを振り返り、評価された点や反省すべき点を抽出し、課題を整理して、今後の対応策を検討することにした。

3. 関係機関の対応状況(抜粋)

7月7日の各機関の動き

機関	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
南海港湾理事事務所																									
笠戸海上保安部																									
下松市																									
南海土木建築事務所																									
新笠戸ドック																									
笠戸島公民館																									
深淵公民館																									
道路状況(尾郷地区)																									
道路状況(深淵)																									
警報等(下関地方気象台)																									
道路状況(尾郷地区)																									
道路状況(深淵)																									
土砂災害																									
土砂災害																									
大雨警報																									

①下関地方気象台	0時00分	大雨警報継続中
①下関地方気象台	0時00分	土砂災害警報継続中
①道路状況(深淵)	0時00分	通行止め継続中
②道路状況(尾郷地区)	2時00分	尾郷地区道路閉鎖
②南海土木建築事務所	2時00分	尾郷地区 道路崩落情報あり現地調査を実施。現地確認後、崩土撤去工事に着手
②下関地方気象台	2時00分	洪水警報発令
③笠戸島公民館	3時00分	尾郷地区の道路崩壊した道の下に住む住民が避難
④南海土木建築事務所	6時00分	新笠戸ドックへ県道笠戸島線の通行不可情報を提供
④下関地方気象台	6時00分	洪水警報解除
④新笠戸ドック	6時00分	南海土木建築事務所より県道笠戸島線の通行不可情報を受信
⑤新笠戸ドック	9時00分	工場内の土砂がくずれ、道路の現地確認と今後の対応の依頼
⑥下関地方気象台	9時20分	土砂災害警報解除
⑦新笠戸ドック	10時00分	南海港湾理事事務所と港湾使用についての協議
⑦新笠戸ドック	10時00分	新笠戸ドックと港湾使用についての協議
⑧下関地方気象台	10時24分	大雨警報(土砂災害) 解除
⑨徳山海上保安部	13時00分	緊急輸送の実施
⑨笠戸島公民館	13時00分	保安部より緊急輸送を受ける。避難所開鎖
⑨深淵公民館	13時00分	保安部より緊急輸送を受ける。避難所開鎖
⑩下松市	13時00分	保安部へ緊急輸送の依頼をする。
⑩下松市	13時45分	保安部へ物資搬送の依頼をする。
⑩徳山海上保安部	13時45分	下松市から物資搬送の依頼あり
⑩徳山海上保安部	20時05分	緊急物資を徳山港で積み込み開始
⑩下松市	20時05分	緊急物資を徳山港で積み込み開始
⑩徳山海上保安部	21時00分	新笠戸ドックで物資の受け渡し
⑩下松市	21時00分	新笠戸ドックで物資の受け渡し
⑩笠戸島公民館	21時00分	新笠戸ドックで物資の受け渡し
⑩新笠戸ドック	21時00分	新笠戸ドックで物資の受け渡し
⑩下関地方気象台	22時13分	大雨(土砂災害) 警報発令
⑩徳山海上保安部	22時25分	深淵へ緊急輸送(わかめごはん等)
⑩深淵公民館	23時25分	海上保安部から緊急輸送(わかめごはん等)
⑩下関地方気象台	24時00時	大雨(土砂災害) 警報発令継続中
⑩南海土木建築事務所	24時00時	崩土撤去工事を実施中
⑩道路状況(深淵地区)	24時00時	通行止め継続中
⑩道路状況(尾郷地区)	24時00時	通行止め継続中

4. 航路の概要

被災地区の位置図と航路について

被災地区

- 崖崩れ地区 通行止め
- 深浦地区 通行止め

港名

- 1 下松第二埠頭
- 2 下松第一埠頭(新川)
- 3 窪(おとし)津津(大城下)
- 4 新笠戸ツク橋
- 5 深浦萬津港

江の浦地区
深浦地区
小深浦地区
347世帯557人が孤立

航路について

- 航路1: 新川(新笠戸)〜下松 新笠戸(ツク橋)〜下松
- 航路2: 新笠戸(ツク橋)〜窪(おとし)津津(大城下)
- 航路3: 窪(おとし)津津(大城下)〜新笠戸(ツク橋)
- 航路4: 窪(おとし)津津(大城下)〜深浦萬津港
- 航路5: 窪(おとし)津津(大城下)〜新笠戸(ツク橋)

7月9日から7月28日まで
3航路を最大5隻で運航実施

5. 検討会での課題の抽出

- 船舶の輸送能力不足について
- 岸壁での乗下船時の安全確保について
- 行政間の連絡体制の複雑化について
- 道路の通行止め情報の不徹底

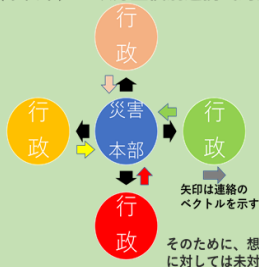


【写真は岸壁からの乗下船風景】

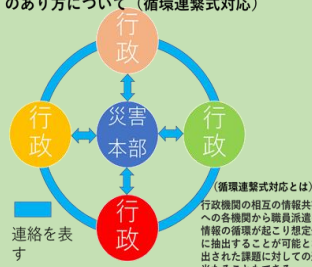
8. とりまとめ

①行政機関同士の相互連絡で住民のより安全安心を護ることが出来る。

本災害では行政機関は災害本部(下松市)と双方型個別連携式対応



今後の災害支援における行政機関の連携のあり方について(循環連携式対応)



6. 住民アンケートについて

平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立に関するアンケート調査

まず、ご回答者自身のことについてお聞きします。

該当する番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 性別	1. 男性	2. 女性			
2. 年代	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代
	6. 60代	7. 70代	8. 80歳以上		
3. お住まいの地区	1. 江の浦地区(新笠戸ドック)	2. 江の浦地区(新笠戸ドック以外)	3. 深浦地区	4. 小深浦地区	5. その他()
4. 孤立時のご家族の状況	孤立時に一緒に暮らしていたご家族は、あなたを含めて何人ですか。()人 同居者がいらっしゃる場合は、どのような方が教えてください。(○は複数可) 1. 夫・妻				
	2. その他家族(大人)				
	3. その他家族(子ども)				
	4. その他()				

問1 あなたは普段、笠戸島の島外にはどのような目的で行くことがありますか。(○は複数可)

1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 通院 5. その他()

問2 あなたは普段、1週間に何回程度、島外に行くことがありますか。(自由記述回答)

() 回程度

問3 笠戸島が孤立した際に、あなたは運航された笠戸島と本土を結ぶ連絡船を利用しましたか。(○は1つだけ)

1. 利用した(問4へ) 2. 利用していない(問11へ)

問4 あなたは笠戸島と本土を結ぶ連絡船についての情報どこから入手しましたか?(○は複数可)

1. 回覧板 2. 近所や地域の方から 3. 職場から
4. 消防・警察などの広報 5. テレビ 6. ラジオ 7. 携帯電話を通じて
8. その他() 9. 情報を入手していない

問5 あなたは笠戸島と本土を結ぶ連絡船をどのような目的で利用しましたか。(○は複数可)

1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買い物 5. その他()

問6 あなたは連絡船で自家用車を島外に搬送しましたか。(○は1つだけ)

1. 搬送した 2. 搬送していない

問7 あなたは連絡船でバイクを島外に搬送しましたか。(○は1つだけ)

1. 搬送した 2. 搬送していない

(上記はアンケート用紙一部を抜粋したものの結果については別添を参照)

7. 住民の要望(アンケート結果から)

- 船舶への乗下船時に、交通弱者(子ども高齢者等)への対応について、配慮して欲しい。
- 積み残しがでた場合の対応が不十分、暑い中で長時間待つは厳しい
- 船の行き先がはっきりしないので、乗り間違えて大変な思いをした。
- 本土側から買い出した物を、自宅まで持ち帰るのが大変だった。など

②船舶利用の際には、利用者の安全対策を第一として、交通弱者に対しても十分な配慮をする。

③輸送能力(旅客定員)の検討には、交通量を参考に算出する。

④行政機関からの連絡は、地域の自主防災組織を活用し、文書等で各自治会や各戸に配付する。

⑤二次交通とテントなどの待合施設の確保。など